

富士見小だより



富士見小 HP

学校教育目標 「未来を切り拓く心豊かな児童の育成」
校 訓 かしく やさしく 元気よく

上尾市立富士見小学校 上尾市柏座 4-3-8 電話 048 (771) 0505

令和8年10月 1日

発行責任者

校長 吉田 充

折り返しを迎えて

校長 吉田 充

連日降り続く雨に、校庭での体育や休み時間の外遊びも思うようにできず、子供たちの有り余ったエネルギーをどうするかに悩まされた9月でした。しかしそのような中でも、夏休みが終わって一か月、子供たちは学校生活のリズムを取り戻しながら、授業や学校行事に前向きに取り組むことができました。また、先日行われた個人面談では、子供たちの成長について成果と課題を話し合い、今後の方向性について共有することができました。ご多用の中ご協力いただき、ありがとうございました。

さて、令和8年度も中間点、折り返しを迎えます。この紙面でも何度かお伝えしましたように、学校が子供たちにとって安心して過ごせて、目標をもって主体的に学習に臨み、自分のよさや可能性を見つけ、伸ばすことができる場所であるかどうかを振り返り、年度後半につなげていくことが大切です。

「非認知能力」という言葉がありますが、物事をやりぬこうとする力や責任感など、目標の達成に関する力、共感性や協調性など、他者と協働する力、自己理解やストレス耐性など感情をコントロールする力といった、テストの点数のように数値化できない力の大切さが、近年注目されているのだそうです。

例えば、目標の達成に関する力を育てるためには、子供たちにできるだけ多くの挑戦する機会を設ける必要があります。しかし、挑戦してうまくできればよいのですが、毎回都合よくうまくいくとは限りません。時には、間違えてしまったり、失敗したりすることもあります。自信をなくして悩んだり、落ち込んだりしてしまうこともあるでしょう。しかしそんな時こそ、失敗やつまずきを乗り越えて、繰り返し挑戦する気持ちを育てることが大切です。そしてその際の重要なベースとなるのが、「一人一人に応じた活躍と成長の場」と、「失敗を責めない雰囲気」であると考えています。

失敗すると笑われる、比べられる、怒られるから、挑戦することを避けるというマイナスの連鎖は断ち切る必要があります。反対に、間違いを学びを深める材料として扱う雰囲気があれば、主体的に物事に取り組み、難しいことにも挑戦してみようとする意欲が育ちます。

こうしたことから、これまで以上に児童理解に努め、個に応じた指導の充実を図り、一人一人の性格や持ち味なども十分考慮しながら、丁寧な指導・支援に努める必要があるととらえています。

令和8年度後半、学校や教室が子供たちの成長の場であり、そして失敗が許される場であることを再確認し、子供たち一人一人が安心して学校生活を送りながら、自分のよさに自信をもち、伸ばしていけるよう努めてまいります。

今後も一人一人のよさを見出し、伸ばす教育を行っていきたいと思います。保護者、地域の皆様方には、引き続きご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。